

## ABEST21

### 2010 経営専門職大学院認証評価審査結果

#### 京都大学大学院経営管理教育部経営管理専攻

##### 1) 教育プログラム

京都大学大学院経営管理教育部経営管理専攻（以下「経営管理大学院」という。）は、高度専門職業人の育成を目的とする専門職大学院として、下記の「教育研究上の目的（mission）」のもとに、大学における研究や知識の蓄積を活用し、企業やNPOなど多様な分野における高度な専門的知識を有するリーダーを育成する目的の実現を目指して2006年4月に発足した。

「本大学院は、先端的なマネジメント研究と高度に専門的な実務との架け橋となる教育体系を開発し、幅広い分野で指導的な役割を果たす個性ある人材を養成することで、地球社会の多様かつ調和のとれた発展に貢献することを理念とする。」

この理念のもとに、経営管理大学院は現代の複雑かつ高度な社会的要請に応えるために、日本の経済社会の現状において時代の要請に即して重要かつ緊急に必要とされる5つの領域の教育プログラムを開発している。その第一は起業や事業再生マネジメント能力を有する人材を育成する「事業創再生マネジメント」プログラムであり、第二は国際的な感覚と多様な経営能力を持ったプロジェクトマネジャーを育成する「プロジェクト・オペレーションズマネジメント」プログラムであり、第三は最先端のファイナンス知識を修得した専門家を養成する「ファイナンシャルリスクマネジメント」プログラムであり、第四は金融工学・ファイナンス関係の知識を併せ持つアカウントティング専門家を養成する「ファイナンス・会計」プログラムであり、第五はサービス・イノベーションを担う専門人材を育成する「サービス価値創造」プログラムである。さらに、2011年4月には新たなコースとして、すべての授業が英語で実施される「国際プロジェクトマネジメントコース」の設置を予定している。

経営管理大学院の教育プログラムの特徴は、文理融合型の経営教育・研究の実践であり、経済学・経営学の専門的知識・スキルだけでなく、工学や情報学などの分野の専門的知識・スキルとの融合・高度化により、現代の複雑に錯綜した経済経営事象を解明し、それをマネジメント教育に反映させていこうとする点にある。これは、他の経営分野専門職大学院にはない特色である。授与する学位は、「経営学修士（専門職）」（MBA、Master of Business Administration）である。

##### 2) 認証評価審査結果

経営管理大学院の「教育研究上の目的」の実現を目指す経営戦略は適切に策定されている。また、自己点検評価の分析は的確に行われており、それぞれの評価基準を満たしていると判断される。さらに、自己点検評価分析において改善すべき課題を自ら抽出し、その課題へ対策を施している。さらに未解決の課題についても自己分析し、計画を適切に設定している。以上のことから、ABEST21は、経営管理大学院の教育プログラムに対して下記の評価をする。

「本教育プログラムは、各評価基準がほとんど又は全てが満たされ、改善すべき課題が少なく、教育研究の質維持向上が十分に期待でき、非常に優れている教育プログラムである。」PDCAのサイクルの効果的な実践が期待できると判断される。

一方、経営管理大学院の教育プログラムのより一層の発展のために、下記の課題の改善が求められる。

- ・「教育研究上の目的」について、「教育研究上の目的」の検証で導入している外部評価のより一層の実践や、今後増加する修了生からの体系的な意見聴取などが期待される。また、外部資金獲得は、運営費交付金が最低限の運営資金としてしか期待できない以上、今後より一層充実した戦略立案が期待される。

- ・「教育課程等」について、スーパーバイザー制度における教員負荷削減の課題があり、スーパーバイザー制度は、経営管理大学院の特徴の一つであり、その効果も大きい反面、教員負荷も大きい。早急な検討が期待される。
- ・「学生」について、「国際プロジェクトマネジメントコース」の開設に伴い、留学生への情報公開や英語によるアドミッション・ポリシーの公開は必須になり、より一層の工夫が期待される。
- ・「教員組織」について、教員の多様性確保、研究業績の公表、事務組織のあり方の検討、研究活動の重視、実務家教員の要件などが検討されているので、中長期的計画を設定し、着実に進める点が重要であると思われる。
- ・「管理運営と施設整備」について、事務体制などの管理運営面、学習環境などの施設整備面が課題であるが、これらは受審校の努力だけ、解決できるものではなく、研究科、全学的な検討が必要と思われる。

URL : [京都大学大学院経営管理教育部経営管理専攻一認証評価結果報告一](#)